様式 C-7-2

自己評価報告書

平成　２１　年　４　月　１５　日現在

研究種目：基盤研究（B）
研究期間：２００６～２００９
課題番号：１８３２００９６
研究課題名（和文）　近代巨大地主家（宮城県河南町齋藤家）文書の整理とアーカイブズ学的研究
研究課題名（英文）　Document Arrangement and Archival Study of the Big Landowner Family in Modern Japan: The Case of Saito Family in Miyagi Prefecture Kanan Town

研究代表者　大藤　修（OOTOU　OSAMU）　東北大学・大学院文学研究科・教授
研究者番号　20110075

研究分野：人文学
科研費の分科・細目：史学、史学一般
キーワード：宮城県桃生郡河南町齋藤家、齋藤善右衛門、齋藤株式会社、齋藤報恩会、近代地主制、アーカイブズ学、史料学

１．研究計画の概要

宮城県河南町前谷地の齋藤家は戦前には山形県酒田の本間家に次ぐ全国第２位の巨大地主であり、同家には１０万点近いと予想される膨大な文書群が保管されていたが、２００３年７月に発生した宮城県北部地震で文書収蔵施設が損壊したため、同年１２月に東北大学付属図書館に寄贈された。本文書群は近代東北史のみならず日本近代史の様々な分野を研究する上で質量ともに稀有の歴史資料であるので、これを整理し、目録情報をウエッブ上に公開するとともに冊子体の目録を刊行して閲覧利用に供しうるようにするのが第一の目的である。同時にアーカイブズ学的研究を行い、わが国のアーカイブズ学の進展に資するのが第二の目的である。アーカイブズ学的研究としては、次の課題に取り組む。①齋藤家文書の調査・整理の実践から得られた知見をアーカイブズ学的に吟味して論文にまとめ、近代民間伝来文書の調査・整理法の発展に寄与すること。②齋藤家文書を利用する上で基礎となる文書群の構造と帳簿体系を、齋藤家の経営組織の変遷および文書の管理システムと関連づけて分析し、未開拓の近代地主家文書の史料学的研究に先鞭をつけること。

２．研究の進捗状況

大藤が整理計画書と整理要項を作成し、この３年間、文書の整理作業と目録作成を、東北大学大学院文学研究科の日本史専攻学生を協力者として雇用し、大藤が指導して進めてきた。

作業の内容は、文書の整理封筒と整理箱への収納という物理的な整理、およびカードへの基本データの記述とパソコンへの入力作業という検索のための目録作成である。整理に際しては原秩序という元の保管形態を尊重しなくてはならないが、多くの文書を一括して束ねたり袋に入れたりしてあるものは、整理の都合上、崩さざるをえない。その場合は写真に撮って元の保管形態を記録している。

１年目にパソコン３台を購入したものの、物理的な整理作業とカードへのデータ記述に力を入れたために、入力作業はあまり捗らなかった。そこで、２年目からはパソンコンを３台追加購入し、計６台を作業室に設置して進めた。

齋藤家文書群は１０万点を超える膨大なものであるが、３年間で物理的な整

理とデータのパソコンへの入力は９程度終えることができた。その結果、齋藤家文書群全体の構成もかなり明らかとなった。

基本をなすのは金融と地主経営に関わる帳簿、および金銭貸借や小作料をめぐる訴訟・裁判関係文書であるが、北海道、常磐、九州などの炭鉱経営、北洋漁業経営にも関わり、また日本の満蒙進出に伴い、南満州鉄道や満蒙鉱業にも投資しており、その関係文書や株券も多く含まれる。齋藤家の地主としての成長過程と経営組織、そして蓄積された地主資本が資本主義システムと日本の対外進出過程でどのように運用されたかを具体的に知ることができる。日本近代史のさまざまな分野に関わる文書を含んでおり、質量ともに史料的価値はきわめて高い。したがって、これを閲覧利用に供しうるようにすれば、日本近代史研究に資するところ大なるものがあろう。

３．現在までの達成度

②おおむね順調に進展している。

（理由）

齋藤家文書は１０万点を超える膨大なものであるので、４年間で整理と目録作成が終了できるかどうか覚束なかったが、３年間で９割以上作業が進捗した。ただ、アーカイブズ学的研究は、整理が進み文書群全体の構造を把握しなければ行えないので、研究成果を論文として公表するまでには至らなかった。

４．今後の研究の推進方策

平成２１年度は最終年度であるので、整理とデータのパソコンへの入力作業を終え、データを整理分析してアーカイブズ学的研究を行い、それを踏まえて解題を書き、冊子体の文書目録を作成、刊行するとともに、ウエッブ上でも目録を公開し、原文書の閲覧公開ができよるにする予定である。

また、整理作業から得られた知見や文書群の構造分析の成果を論文としてもまとめたい。

５．　代表的な研究成果

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計　０　件）

〔学会発表〕（計　１　件）

大藤　修「日本近代巨大地主家（宮城県河南町齋藤家）文書の整理とアーカイブズ学的研究」、東北大学大学院文学研究科歴史科学専攻公開シンポジウム「歴史資源としての史料分析の現在」、２００７年３月２９日、東北大学大学院文学研究科

〔図書〕（計　０　件）

〔産業財産権〕

○出願状況（計　０　件）

○取得状況（計　０　件）

〔その他〕